

2019007

プロジェクト名 雪かき・雪下ろしプロジェクト

プロジェクトの概要

地域の過疎化などによって雪下ろしや雪かきなどの担い手の高齢化が進んでいるという現状がある中で、若い力を必要としている地域に学生が赴き、ボランティアで雪下ろしや雪かきのお手伝いを行う。学生が町に入ることによって地域の雰囲気、結束感の向上に貢献したり、若者の活気を届けることを本プロジェクトの目的とした。

プロジェクトの結果・成果

1日目は、社会福祉協議会主催の地元の餅つき大会のお手伝いを行った。定期的で開催されている高齢者のお茶飲み会の行事の1つで、餅のつき手や配膳、話し相手として活動した。若い人と触れ合うことで、脳の活性化につながり、健康寿命の増進につながると担当者から伺った。高齢者の方々も楽しそうにお話をして下さり、とても喜ばれた。午後は、雪国の暮らしと除雪の方法などスライドを用いて説明を受けた。社会福祉協議会の担当者に丁寧に座学を行っていただいた。雪のある暮らし、降雪ありきの産業形態、弊害など、地域を理解し正しい除雪の方法を学ぶことが出来た。

2日目は朝から八海山スキー場の除雪作業に取り組んだ。重機の入れない場所にある緊急避難小屋の掘り出しを行った。南魚沼市観光協会の方の指導を受けながら、除雪を行った。通常、春先まで雪に覆われ使用できない場所だが、母屋と雪の接地面を減らすことで、雪の融解のスピードが速まったり、建物の保護（雪の重みによるもの）にもつながると教わった。

今年は記録的な暖冬で、民家の除雪作業に携わることは出来なかった。しかし、座学や有識者の指導を受けての除雪体験を通じ、正しい知識と雪国の暮らし、行政が行う活動とボランティアに何が求められているのかなどを理解する非常に良い機会となった。高齢化率が30%を超える対象地域において定期的かつ若者の手助けが必要だと強く感じた。

現地の方々に暖かく迎えて頂いたこともあり、安心して作業に取り組むことができた。担当者から実施中に丁寧なご指導を頂いた他、事前の説明などで目的や注意点などを理解することが出来、活動として非常に満足できるものとなった。定期的な奉仕は必要だと感じた。非常に良い経験になったため後輩たちにも引き継げたらなと強く思う。(参加者の声：法学部3年男子)

活動写真



before⇒ after

